

平成22年度 傾斜的研究費(全学分) 研究報告書

研究代表者 所属	情報アーキテクチャ専攻	フリガナ	ナリタマサヒコ	職	教授
	情報アーキテクチャ専攻	研究代表者氏名	成田 雅彦		
研究分担者所 属	創造技術専攻	研究分担者氏名	村越 英樹	職	教授
	情報アーキテクチャ専攻		戸沢義夫, 秋口忠三, 小山裕司, 酒森潔, 嶋田茂, 瀬戸洋一, 南波幸雄, 加藤由花, 中鉢 欣秀, 小田切和也, 長尾雄行, 土屋陽介, 清水将吾, 森口聡子		教授/准教授/助教
	創造技術専攻		川田誠一, 福田哲夫, 國澤好衛, 小山登, 菅野善則, 橋本洋志, 吉田敏, 越水重臣, 館野寿丈, 網代剛, 安藤昌也, 大坪克俊, 陳俊甫, 村尾俊幸		教授/准教授/助教

研究課題名 グローバルな教育システムに関する研究

研究実績の概要(600~800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)

【背景】日本のIT企業の開発活動はグローバル化しており、一般の技術者も開発等、グローバルな業務に直面する場面が広がりつつある。従って、本番の業務でなく実際に体験・訓練したいという要求が強い。しかしながら、専門技術者レベルでのこうした活動に対する教育界としての体系的なサポートはあまり見られない。

【目的】グローバル環境で活動できる人材は、日本企業や経営者が強く求めていることである。グローバルに活躍できる人材育成のための教育を実施することは、わが国の競争力強化、及び相手国企業の双方の利益となり、情報アーキテクトを育成する専門職大学院として極めて重要であり、これが目的となる。

【研究のプロセスと結果】

本研究は、2008年度よりベトナム国家大学(VNU: Vietnam National University Collage of Technology)と共同で、VNUとPBL(Project Based Learning)手法を用いて両校の学生による共同プロジェクトを行うことにより、グローバル教育の実施の可能性を検証している。当初は、PBL手法がグローバルな教育の手法に適用できるかの検証を行い、適用の感触を得た。本年度は、国際PBLをより高度化し、参加者にとっての魅力を増すためのカリキュラム設計方法として、より日本企業とアジア諸国との業務形態に多い開発委託がグローバルPBLの形態で実施できるかを、本学とVNUの学生による6ヶ月のPBLを通して検証した。この結果、日本側学生が仕様を提示し、VNU学生がソフトウェアを開発するという形態でのPBLが実施できることが確認できた。更に、その一環で企業との連携を含めた研究開発型のPBLが実施できるかどうかを本学、VNUの教員と合同で検討した。

また、PBL管理システムであるiPBLについてPBLシステムとその仕様マニュアル等のドキュメントを国際化した。

本研究の成果のより広い展開については、本学の提唱するAPEN構想を進めるに当たっての唯一の実績としてAPEN構想のなかで中国/韓国への展開の戦略が可能になった。APEN2011については、こうした一環としてVietnam National UniversityのAPENへの参加を実現した。これらを通し本学のグローバル化の推進に大いに貢献した。

【今後】本研究の成果を踏まえ、VNUとのグローバルPBLを研究系のテーマについて実施すべくより具体的な協議・試行を進め、本学の特徴ある教育プログラム開発をめざしていく。同時に、APENを通じて中国、韓国を含めての協調へ広げていく。

平成22年度 傾斜的研究費（全学分）研究報告書

学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）					
グローバルPBLの取り組みに関して、APEN2011での発表を予定している					
論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）					
グローバルPBLの取り組みに関して、情報処理学会、産業技術大学院大学紀要での論文発表を予定している					
科学研究費補助金への応募状況、採択状況					
特になし					
国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況					
特になし					
その他社会貢献 [公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]					
今回の研究を通じて、ベトナムの大学との国際交流、ベトナムへのPBL教育方法の普及による国際的な貢献を行った。さらに、今回の研究成果を踏まえて、APEN構想に基づき、アジア諸国への展開、継続的な国際交流に発展させていく。					
研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況					
工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類・番号	出願年月日	取得年月日